

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	商業地における地域的個性の形成・残存メカニズムに関する 動態地誌学的研究
------	---

研究代表者

氏名 牛垣 雄矢	所属 人文社会科学系人文科学講座	職名 講師
-------------	---------------------	----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本研究の課題「商業地における地域的個性の形成・残存メカニズムに関する動態地誌学的研究」のうち、前半部分に当たる「商業地の地域的個性の形成・残存メカニズム」の究明は、研究代表者がこれまで一貫して行ってきた研究課題である。一方、後半部分にあたる「動態地誌学的研究」は、本学における担当科目「地誌学概論」や「地誌学研究」において、特に動態地誌の観点から講義を行っていることと関係している。これまで行ってきた商業地研究に動態地誌の観点を取り入れることによりその研究を進化させることに加え、本学における地誌学の授業の充実を図ることが本研究の目的である。

本研究の成果として3点があげられる。1つは、これまでの地理学における商業地研究の視点・方法・内容を整理したものである。これまで、地理学の卒業論文や修士論文においては、商業地を研究対象とすることが数多くみられるものの、これらが全国規模の学会の学術雑誌に掲載されることは少なかった。全国学会の学術誌に掲載された商業地研究は、それぞれ異なる「枠組み」の中で研究を位置づけており、商業地研究としての体系は存在しない。そのため、学生が卒業論文などで詳細な実証的分析を行っても、既存研究の中での位置づけが上手くできず、「詳細な現地調査と分析は行ったものの、そこから何を主張するか」という問題を解決できないことが、全国学会の学術誌で商業地研究が少ない原因のように思える。そこで、別途提出する報告書のⅡ章においては、地理学における主要な全国学会の学術誌に掲載された商業地研究を整理し、これについて考察した。この成果を本学の「地誌学研究」における講義で活用することで、学生たちが地理学・地誌学的な地域研究を進めるうえでの視点・方法を修得する際の助けとなると考える。

2つ目は、著者がこれまでも進めてきた東京・秋葉原における研究の成果についてである。これまで計3編の論文を発表し、「商業地の地域的個性の形成・残存メカニズム」の考察を進めてきたが、これは2006年の現地調査およびそれ以前のガイドブックから得られたデータをもとに分析している。したがって、ガイドブックには掲載されにくい雑居ビルに入居するような小規模な店舗は十分に考察することができなかった。しかし、秋葉原や原宿などの商業集積地において小規模な店舗の存在は、その地域を特徴づけ、地域に個性をもたらす要素として重要である。そこで、2013年に新たに現地調査を実施し、2006年と2013年の現地調査データにもとづき、秋葉原地区の商業集積およびその変化の特徴について考察した。これは、全国の商業地がチェーン化することによって均質空間が広がる中で、良くも悪くも強烈な個性を形成・維持している秋葉原において、これまで片手落ちであった研究成果を大きく補うものであり、別途提出する報告書のⅢ章で報告している。これにより、著者が掲げている「商業地の地域的個性の形成・残存メカニズム」を前進させることができ、かつ本学の「地誌学概論」を中心に組み組んでいる動態地誌的観点による地誌学習の充実を図ることができると考える。

3つ目は、地方都市の中心商業地を把握するために、地方都市の中でも高崎・前橋・宇都宮・栃木・水戸・高知・高松・松山・宇和島において、現地での観察調査と資料収集を行った。この資料をもとに、これらの地域の実態と地域構造に関する分析を進めているが、これについては研究の途についたばかりで、研究成果を提示する段階には至っていない。

以上、別途提出する報告書のⅡ章・Ⅲ章についても、いずれも資料の収集や分析が不十分であり、本重点研究として進めてきた課題はまだまだ途中段階といてよい。したがって、その内容もはなはだ不十分ではあるが、本研究課題の今後の進展に向けて研究を継続していきたい。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

報告書:『商業地における地域的個性の形成・残存メカニズムに関する動態地誌学的研究』

学会口頭発表:「空間の個性化と均質化が進行する秋葉原地区」日本地理学会春季学術大会

(2015年3月29日(土)、於・日本大学)

論文:「空間の個性化と均質化が進行する秋葉原地区」(予定)

(日本地理学会『E-journal GEO』もしくは日本地理教育学会『新地理』へ投稿予定)